

医療連携に向け、脳卒中のWEB講演会

脳卒中をテーマにしたWEB講演会が2月28日、結城市医師会と第一三共の共催で城西病院会議室を会場に開かれました。

この講演会は、茨城県の県西地域で脳卒中などの脳疾患に対する医療体制を整えるため、まずは結城市や周辺の医療機関との連携を進めていきたいと開かれ、約50人がリモートで参加しました。

WEB講演会では城西病院の藤田善幸院長が開式のあいさつで、茨城県の県西部の医療体制に触れ、「県西地域で地域住民に途切れることなく医療を提供していくためには、限られた施設だけで行うのは無理。医療機関の横のつながりで可能となっていく。そのためのネットワーク構築には、まず自分たちの施設で何ができるのかを考えていくのがスタートになる」とあいさつ。

講師には、自治医科大学附属病院脳卒中センターの田中亮太センター長、結城市内みずのクリニックの水野修院長、城西病院脳神経外科の後藤晴雄部長が参加。後藤部長は、脳血管カテーテルについて考察したのち、城西病院で行ってきた手術例を紹介しました。

後藤部長は、脳血管カテーテルについて「脳血管カテーテルが日本に導入されてまだ10～20年しか経たない。従来の手術を補うものであったが、良好な治療報告が相次ぎ、この5～10年で普及してきた。そしてまだまだ進化している」と説明。



城西病院では2020年5月から2022年1月にかけて67件の脳外科手術が行われ、うち半数近くがカテーテル治療で占めている状況を示したうえで、城西病院で行ったカテーテル治療の中で①くも膜下出血②頸動脈狭窄による脳梗塞③超急性期脳梗塞—の3例について、発症の状況や治療方法、治療過程、治療結果など詳細に紹介しました。質疑応答の中で、「城西病院との連携を深めたい」「脳梗塞になる前に紹介したいが」などの質問が寄せられました。

引き続き、「脳卒中診療の最新 up to date」と題し、田中センター長が最新の脳卒中治療について講演しました。

2022年3月2日



脳血管カテーテルの治療（城西病院）

